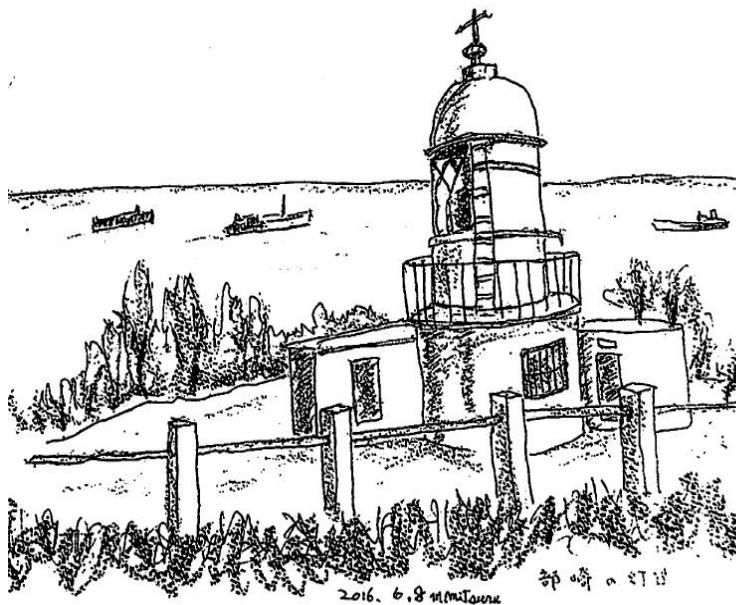


# 週報2020年9月13日



## 2020年教会標語聖句

キリストの平和が、あなたがたの心を支配するようにしなさい。

コロサイ人への手紙 3章 15節

シオン教会信仰指標：“成熟したキリスト者を目指して”

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団

## 北九州シオン教会

牧師：山崎銀次郎

<http://jesus.holy.jp/>

〒800-0038 北九州市門司区大里原町 6-10

TEL 093-381-4395(FAX…4396)

牧師携帯 090-6737-5276



## 礼拝順序 2020年9月13日（日）

前奏	力丸勝子 師
開会の祈り	山崎銀次郎 牧師
信仰告白	使徒信条
	標語聖句唱和「コロサイ書 3章 15節」
讃美	新聖歌 18 「おお御神をほめまつれ」全節
献身の祈り	山崎銀次郎 牧師
讃美	新聖歌 396 「慕いまつる主の」全節
聖書朗読	コリント人への手紙 第一 13章
説教題	「最高の道」
お祈り	御言葉の応答の祈り
祝福と派遣の祈り	山崎銀次郎 牧師
後奏	力丸勝子 師

## 交わりの三省

- \*互いに愛し合っていますか
- \*互いに赦し合っていますか
- \*互いに祈りあってますか

# 説教要約

## Iコリント 13 章 「最高の道」

### I. 緒論

パウロがコリントの人々に手紙を宛てた理由は教会の秩序を正すためです。パウロは礼拝に対する理解の欠如が教会の混乱と不一致を招いていると指摘しています。そこでパウロが言う正しい礼拝とは何か？それは Iコリントの鍵句とされている 1 章 9 節・10 節に答えがあります。要約すると「神の召しによって招き入れられた主イエス・キリストとの交わり、そして主に召された者達として心を合わせて一致する事」です。そこでパウロは 13 章で結論的にそのためには愛が必要不可欠だと語っています。

つまりパウロは教会の秩序は愛によって保たれると言っています。ここでパウロは愛の三つの側面を伝えています。①どれだけ教会の中に優れたものがあったとしても、愛が無ければ無意味である。②人は愛によって人格的に成長し、お互いが成長する。③そして世にある全てのものはやがて無くなるが、愛はいつまでも無くならない。ここで大切な事はこの愛は人から出たものでは無く、神から出たものだという事です。そしてこの神の愛とは、御子を世に遣わしたという事です。この愛によって神と人は結び合わされ、人と人は結び合わされて成長する。これを第一として守る時に、教会の秩序は守られ、正しい礼拝が捧げられて行く、とパウロは説いています。

コリントの教会の人々は性的に乱れており、内紛があちらこちらで起こり、礼拝の在り方についても混乱が生じ、多くの問題を抱える教会でした。でもパウロが指摘した一番の問題は、各々の心の内にある争いを治める事が出来なかつた事です。つまりコリントの人々は熱心に追い求めているものを履き違えていました。妬みや嫉妬によって心を燃やすのではなく、神の愛を追い求め、自らを低くし、相手を尊重し、協力して神の業を前進させるようにパウロは願っています。今日私達に問いかけられている事は「私達が熱心に追い求めているもの」です。

### II. 本論(証)

私が牧師としての召命を受けたのは 19 歳の時でした。しかしこの時、母は私が牧師になる事に対して断固反対しました。それから教会献身という形で教会に仕え、社会に仕え、家族に仕えました。それから 10 年過ぎた 29 歳の時、私はこのまま教会献身という形で教会奉仕を続け、社会と家族に仕える決心

をしました。それが一番最善だと考えたからです。しかし私の心には全く平安がありませんでした。

この時、神様からはっきりと「あなたはどうしたいのか？」と言われました。その一言で、私の決心はただ環境に流されて安定した道に進もうとしただけで、その告白には自分の意志が伴っていない事に気付かされました。神様が示して下さった通り、「自分はどうなりたいのか？」と自分に問い合わせた時、自分の本心は神様の召しに従って牧師になる事だとたっきりしました。そしてその事を会社の上司に告げ、母教会の牧師先生に告げ、母親に告げました。

私が献身を告白するにあたって一番恐れていたことは否定されるという事です。しかし私がこの先、たとえ働きや人格を否定され、傷ついたとしても、フルタイムの献身に応答出来たのは神様の計画を信じたからです。つまり神の愛が私を覆い続けて下さり、本当の癒し、赦し、解放、そして愛に立ち返らせて下さる事。たとえ欠けだらけの私でも、そこから流れる神様の愛によって、隣人が神の愛に立ち返る事。自分の考える最善の道ではなく、神様が用意して下さった最高の道を信じて献身の道を進む決心をしました。

### III. 結論

間違探しゲームというものがあります。二つの写真や絵を見比べて一つ目の写真と二つ目の写真の違いを探すゲームです。私達は日常の中で同じ事をします。正しい写真は自分で、社会、学校、家庭、教会が間違った写真です。間違いを探し、指摘するたびに自分の正しさが証明されていきます。しかし気が付けば孤立、ケンカ、闘争の渦中にいる時があります。それは心の争いを治めることが出来なかつたからです。

間違いは誰にでもあるものです。そして人と自分は違って当然です。一人一人神様が創った人格があります。そういう正しい人間の理解を繰り返して、相手の人格を認める事、赦す事、お互いが人格的に建て上げられていく事が大切です。そしてそのような心に立ち返る為に必要な事は、神の愛に身を委ねる事です。

私の事を誰よりも愛し、その存在を認めて下さるイエス様。その愛が中心にある時、欠けだらけ、ヒビだらけの“自分”という器から愛が流れ、謙遜に忠実に神と人、社会に仕える人に生まれ変わります。そんな人達(キリスト者)の集まる教会はどんな設備の整った教会よりも美しくて力強い教会です。なぜならパウロが言う正しい礼拝がそこで捧げられているからです。神の愛の内にあって、共に建て上げられて行く者となりましょう。